

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月30日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520318

研究課題名（和文） 初期「新フランス評論」誌と同時代の象徴主義文芸誌

 研究課題名（英文） The Early Nouvelle Revue Francaise and its contemporary
Symbolist literary magazines

研究代表者

吉井 亮雄 (YOSHII AKIO)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：40200927

研究成果の概要（和文）：過去3年間の主要な成果としては次の3点がある。第一は、フランスにおいて初期「新フランス評論」誌にかんする多数の関連未刊文献を参照し、同時代の文学環境について具体的な知見を深めたこと。第二に、同誌と交流のあった文芸誌、とりわけ「ラ・ファランジュ」を調査し、その総合索引を作成したこと（この成果はフランスのジッド研究センターから出版予定）、第三に、アンドレ・ジッド＝ポール・フォール往復書簡集校訂版を公刊したことである。

研究成果の概要（英文）：Our research over the last three years has produced three major results. Firstly, a substantial investigation of many unpublished documents related to the early *Nouvelle Revue Française*; secondly, a complete index of its contemporary major periodical *La Phalange* (this work will be published in France); and thirdly, a critical edition of the Correspondence between André Gide and Paul Fort.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：フランス文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：仏文学、文学史、象徴主義、新フランス評論、アンドレ・ジッド、誌と散文、ラ・ファランジュ

1. 研究開始当初の背景

報告者は、すでに科学研究費補助金による3つの研究（「アンドレ・ジッド草稿研究」、

課題番号 13610609、平成13～15年度、「初期『新フランス評論』誌とフランス語圏ベルギー文学」、課題番号 16520162、平成16～

18年度、および「初期『新フランス評論』誌と同時代文芸誌」、課題番号19520239、平成19～21年度）をつうじて、未刊書簡をはじめとする多数の文献や資料を渉猟し、これによって20世紀初頭フランスの文学環境にかんする実証的知見を深めた。とりわけジッドが1909年に創刊した「新フランス評論」誌は一貫して主要な研究対象であった。

上記の実証的蓄積をつうじて「新フランス評論」誌創刊前後のフランス国内外の文学交流の重要性を強く認識したことが本研究課題の着想源となっている。周知のように「新フランス評論」が編集方針のひとつとして標榜したのが20世紀の新たな文学理念の確立であった。外国文学を積極的に受容・紹介したのもその一環であったが、国内的には「世紀末象徴主義との決別」という面を強く打ち出していた。「誌と散文」（ポール・フォール主宰、1905年創刊）、「ラ・ファランジュ」（ジャン・ロワイエール主宰、1906年創刊）をはじめ、いくつかの文芸誌が象徴主義の継承を謳ったのとは対蹠的な編集方針だったといえよう。だが実際には、アンドレ・ジッドら「新フランス評論」グループはこれらの文芸誌とは相当に密接な関係を保ち、頻繁に情報を交換しつつ、ときには相互に作品を提供しあったのである。

なお、3つの先行研究課題のうち、直前の「初期『新フランス評論』誌と同時代文芸誌」は当初4年間を予定していたが、実際の作業・分析が順調に捗ったため、最終年度は本研究課題に切り替えをおこなった。その意味で本研究課題は、先行成果を基盤にすえつつ、さらに大きな射程のなかでの展開を試みたものといえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記のように理念と現実とが複雑に錯綜する同時代文学環境の具体相を実証的に考究し、あわせて、第一次世界大戦を機に象徴主義諸誌が相次いで消滅し

た後も「新フランス評論」誌が如何にして存続し新たな発展・成長期を迎え得たのかを探ることにあつた。

初期「新フランス評論」誌と同時代の象徴主義文芸誌との関係を総合的に論じた研究はこれまで実質的に皆無であった。それゆえ本研究は、19世紀末から20世紀初頭にかけて成立した新たな文学環境の一側面に照明を当てる貴重な貢献となることが期待された。また従来にもまして「相互的メディア交流」の重要性が指摘される今日、ひとり雑誌編集の実態解明にとどまらず、広く文化的な伝播・交流のあるべき姿を探る手だてとしても本研究の意義は大きいものと思われる。

申請者は最近では、仏英の共同研究グループが作成したジッド『法王庁の抜け穴』生成批評版（ガリマール出版、2001年刊）の校閲を担当、また斯界の第一人者クロード・マルタン国際ジッド学会名誉会長と共同で『ジッド研究書誌（1918-2008年）』（ジッド研究センター、2009年刊）を作成するなど、海外との情報交換・共同研究も積極的におこなっている。その点においても本研究は国際的な学術交流推進の一助となろう。

3. 研究の方法

本研究課題が対象とする時期（一応の区切りとして1905年から第一次世界大戦勃発までの10年間に刊行され、かつ「新フランス評論」グループと何らかの関わりがあつた文芸誌については、すでに作成していた予備的なリストにしたがい、資料体の充実を図りつつ、実地の調査をおこなった。

国内では入手難の関連雑誌類の参照と並んで、未刊行の文献や資料（特にジッドと同時代作家・文学者たちが交わした書簡）の閲覧・筆写のため、数回にわたりフランスでの現地調査をおこなった。主要な訪問機関はパリ大学附属ジャック・ドゥーセ文庫とフランス国立図書館の2カ所であったが、数件の私的コレクションの調査もおこなった。

ちなみに公的所蔵機関のうち、ドゥーセ文庫の場合、閲覧規則がきわめて厳格に定められており、書簡類にかんしては差出人（あるいはその遺産相続人）の許可が必要とされるが、事前の探索・調査によってこれを首尾よく取得し、現地での無用な時間的ロスを防ぐように努めた。

4. 研究成果

上述のように、本研究課題は先行課題「初期『新フランス評論』誌と同時代文芸誌」の成果を基盤にすえつつ、さらに大きな射程のなかでの展開を試みたものである。

先行課題からの継続的な成果としては、大学紀要での日本語版発表をへて 2012 年にフランスで公刊した『アンドレ・ジッド＝ポール・フォール往復書簡集』校訂版が挙げられる。同書は、両作家の文学的交流のみならず、雑誌編集の実態を証言する一級資料としてすでに研究誌数誌の書評対象となり、そのいづれでも好意的な評価を受けている。

また新たな考察対象としては、「メルキューール・ド・フランス」「レルミタージュ」など 19 世紀末創刊の象徴主義文芸誌の影響を踏まえつつ、特に「ラ・ファランジュ」に集った作家・批評家にかんする実証的調査に力を注いだ。具体的な成果としては、同誌の総合索引を前出クロード・マルタン氏と共同で作成（ジッド研究センターより出版予定）、また同誌を経て「新フランス評論」で活躍した批評家アルベール・チボーデがジッドと交わした『ジッド＝チボーデ往復書簡集』の編纂・校訂作業も順調に進んでいる。

研究期間に、本課題に関連して学術論文 7 点、著書 3 点（内 2 点は分担執筆）を公表した。当初の計画を順調に遂行し、相応の成果をあげたものとする。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

- ① 吉井亮雄 「「デラシネ論争」「ポプラ論争」の余白に——ジッドとルイ・ルアールの往復書簡——」、『ステラ』第 31 号（査読有り）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2012 年 12 月、287-298 頁。
<http://hdl.handle.net/2324/26094>
- ② 吉井亮雄 「ジッドとガストン・ソーヴボワ」、『ステラ』第 30 号（査読有り）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2011 年 12 月、301-314 頁。
<http://hdl.handle.net/2324/20567>
- ③ 吉井亮雄 「エチエンヌはジッドの「いとこ」なのか」、『ステラ』第 30 号（査読有り）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2011 年 12 月、315-321 頁。
<http://hdl.handle.net/2324/20568>
- ④ 吉井亮雄 「ジッドとチボーデ」、『ステラ』第 29 号（査読有り）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2010 年 12 月、1-40 頁。
<http://hdl.handle.net/2324/18940>
- ⑤ 吉井亮雄 「ジッドと『タン・フューチャー誌』」、『ステラ』第 29 号（査読有り）、九州大学フランス語フランス文学研究会、2010 年 12 月、41-44 頁。
<http://hdl.handle.net/2324/18941>
- ⑥ Akio YOSHII, « Découvrons Henri Michaux d'André Gide. La conférence non prononcée en mai 1941 », *Bulletin des Amis d'André Gide* (査読有り), n° 167, juillet 2010, pp. 311-332.
<http://hdl.handle.net/2324/19165>
- ⑦ Akio YOSHII, « Gide et Tolstoï. Autour de la lecture du *Retour de l'Enfant prodigue* à Iasnaïa Poliana », *Bulletin des Amis d'André Gide* (査読有り), n° 166, avril 2010, pp. 205-212.
<http://hdl.handle.net/2324/19166>

〔図書〕（計3件）

- ① 吉井亮雄（分担執筆）『テキストの誘惑／フィロロジの射程』（岡崎敬・岡野潔編）、九州大学出版会、2012年9月、195-210頁（「作家の書簡集を編む」）。
- ② Akio YOSHII, André Gide - Paul Fort, *Correspondance (1893-1939)*, Tupin et Semons : Centre d'Études Gidiennes, juillet 2012, 94 pp.
- ③ 吉井亮雄（分担執筆）『文学作品が生まれるとき——生成のフランス文学』（吉川一義・田口紀子共編）、京都大学学術出版会、2010年10月、52-55頁、375-397頁、471-474頁（「ジッド『狭き門』の成り立ち——構想・執筆から雑誌初出、主要刊本まで」、「ドゥルオ会館における古書・自筆稿類の競売」、「ジャック・ドゥーセ文庫」）。

〔その他〕

ホームページ等

- ▶ <http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/french/>（九州大学仏文学研究室 HP）
- ▶ http://leda.lib.kyushu-u.ac.jp/profile/au_name:吉井,+亮雄（九州大学学術情報リポジトリ、吉井亮雄プロフィールページ）

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉井 亮雄（YOSHII AKIO）

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号： 40200927

(2)研究分担者／なし

(3)連携研究者／なし